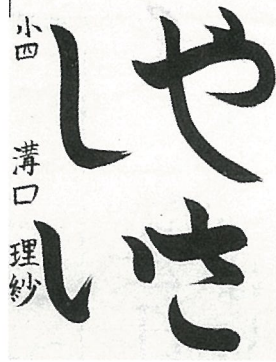




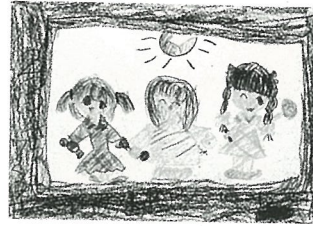
4年 溝口 理紗さん

※ひらがなの
で、やわらか
い感じを出す
のと、全体の
バランスに苦
劳しました。



1年 下田香織さん

※わたしは人気
アイドルです。
すてきなおよ
うくをきて
テレビでうた
います。



『テレビにでたら』

あつまれみんなの力作



『布を生かして』



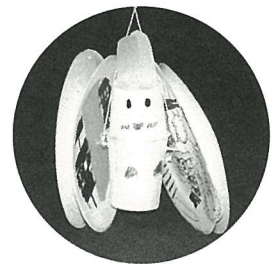
5年 木原 敬大くん

※おかあさんの
使わなくなっ
たストッキン
グを利用して
ふしぎな生き
物を作しまし
た。



2年 菅野 舞さん

※ひもを引くと
うさぎがユラ
ユラゆれなが
らココロ回転
がります。か
わいいですよ。



『うさぎのコロコロ』



6年 伊藤 優太くん

※キャベツの色
ぬりとニスぬ
りをするとこ
ろがたいへん
でした。



『ぼくの朝食』



『海の中』



3年 向後 夏紀さん

※魚たちの楽し
そうなようす
をイメージし
て作りました。
タコの足が、
大変でした。

ひかり俳壇

越川せつ子 (篠本)

緑蔭に魚ひそみ居て波立てず

深緑りの樹影を敷く湖水、水草の
下には雑魚が静止して動く気配も
ない静穏な一刻を詠む

水須ゆき子 (橋場)

緑蔭や足裏見せて吾子眠る

冷暖房完備で総べてが都会的とな
った現代の農村では余り見かけら
れず、郷愁を誘う

山崎 てい (二又)

強引な新聞拡張梅雨寒し

断る間も与えぬ拡張員の舌鋒に、
辟易した心情を表白した下五の季
語は動かし難い

伊藤 幸枝 (尾垂)

夏めきて白衣の衿の糊つよし

椎名 静子 (二又)

夏足袋の乙女草津の大大鼓

伊藤 雅子 (尾垂)

幼児の頬に映ろう合歓の花

鈴木とし子 (宝米)

緑蔭に地蔵の顔もふくよかに

川島 通則 (二又)

舟人となる錦江湾に風薫る

大谷 武彦 (木戸)

緑蔭や吾が影一つ坂の道

短評 椎名しげる

評者吟 緑蔭に入るたび覗く万歩計